

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 21 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070901956
法人名	医療法人 ながら医院
事業所名	グループホーム月華
所在地	福岡市博多区比恵町12-12 〒812-0014 (電話) 092-477-3123

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(平成 20 年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 1 日				
ユニット数	2 ユニット		利用定員数計		18 人
職員数	17 人 常勤	8 人	非常勤	9 人	常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (200,000 円)	無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円)	有の場合 償還の有無	有 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 550 円	
	夕食 450 円	おやつ 100 円	
	または1日あたり 円程度		

(4) 利用者の概要(3 月 1 日現在)

登録人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 74 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ながら医院 ・西田歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年の地域医療を通して、住民自らのかかり合いから、グループホームの必要性を認識し、地域との支えあいの下、理想を持って開設された2階建てのグループホームで、1階は地域交流サロンとして提供している。ホームとして、「住み慣れた所で、なじみの人たちといつもの一日が送れる。楽しく笑いの絶えない。」という理念を基に楽しく生きがいを持った生活を提供している。開設して2年ほどではあるが、記録類が充実しており、情報の伝達もスムーズで介護の内容にも統一性がみられる。職員は、常に入居者の立場に立ち、入居者の希望や意向を日常の会話の中から聞くように心がけられていて、入居者に温かい笑顔が見られ、落ち着いた生活空間がকাশ出されている。また、入居者は散歩や買い物、地域行事への参加などを通じて、地域に溶け込み支えられているという存在感のあるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価を受けて、全職員で協議を行い、地域交流を積極的に行うなどの具体的な改善が見られる。また、運営推進会議で外部評価について報告がなされるなど、公表に向けて積極的に取組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、全体会議時に外部評価の意義などの説明を行い、全職員にて自己評価内容について話し合うなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 地域を代表する方々、理事長、法人内の事務長や介護課長、家族、ホーム職員の参加により6ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、外部評価の結果報告や現状についての報告、ホーム改善に向けての提案をするなど、質の向上に向けての取組みや検討が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけや説明、家族会や運営推進会議での働きかけ、家族には月に1度は訪問していただくなどの働きかけなど、家族の意見や思いを表出するための取組みがある。家族からの意見等については、全体会議やミーティングで対応について協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、地域行事への参加、地域の商店街の利用など、地域交流への取組みがある。また、ホーム行事に地域住民の参加など、地域の人々との交流を深めている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになったことを受けて、全職員の協議により理念が作成されている。また、日常的に地域の人々との交流の取り組みがある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示しており、自然と目に入る工夫がある。ホームの全体会議やユニット毎のミーティングで理念に基づいたケア内容について協議されるなど、理念の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地域行事や老人クラブの催しへの参加、地域の商店街の利用など、地域交流への取り組みがある。また、ホーム行事に地域住民の参加が見られるなど、地域に溶け込んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、検討する取り組みがある。前回の外部評価結果は、いつでも閲覧できる状態であり、全体会議や運営推進会議で説明を行うなどの取り組みがある。前回の外部評価を受けて、地域交流を積極的に行うなど、改善がみられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、法人理事長、法人内の事務長や介護課長、ホーム職員の参加にて昨年から6ヶ月毎に開催しており、外部評価の結果や現在の取り組み内容等について報告し、改善すべき点について意見をもらうなど、質の向上に向けての取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議への参加等の声かけを行う等の取り組みはあるものの、参加までには至っていない。	○	地域包括支援センターや行政への情報提供や、事務所見学会や行事開催の提案を行う等、接する機会を設け、交流を通じて、連携が取れる関係作りへの積極的な取り組みを期待します。
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業及び成年後見制度に関しての勉強会を行い、職員の理解を図る取り組みがある。入居者・家族への説明等の働きかけは、これからの課題である。	○	運営推進会議や家族会等を利用して、情報提供の機会を設け、地域や利用者に活用していただけるような支援を期待します。
4 理念を实践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議や家族会等で入居者の様子や暮らしぶりを報告している。また、家族の面会時に写真や介護記録等を使用しての具体的な説明を行うなどの働きかけがある。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の声かけ、運営推進会議や家族会等を利用した意見聴取が行われている。意見や要望に関しては、全体会議時に対応について話し合うなど、運営に反映させている。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合は、入居者の状況を配慮しながら離職の挨拶等を行い、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。新しい職員の採用時には、馴染みの職員が主に関わるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	19 追加	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限は行われていない。月1回の法人内研修や職員全員が外部研修への年1回以上の参加を目標とするなど、質の向上に向けた取り組みがある。また、資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体での人権研修に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を実施し、人権教育や啓発に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会や資格取得のための研修参加希望があれば、勤務を調整をする等の支援がある。研修案内の提示、各職員の経験年数やスキルに応じた参加の機会を確保している。研修後は、全体会議で研修報告を行い、全職員で共有できるように取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユニット内での情報交換や交流等が行われている。また、管理者レベルでの同業他者との交流は行われているものの、職員間レベルでの相互交流などは、これからである。	○	行政や他の事業所との職員同士の情報交換や相互見学、体験交換などを通じたサービスの質の向上への取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による入居者の入居前自宅訪問やホーム見学などを通じ、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する仕組みがある。新しい入居者にはかわりを多く持ち、常時職員が付き添い、入居者の不安を軽減し徐々に馴染めるような工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりの中で、しきたりや習慣等について学んだり、入居者による職員への気遣いやねぎらいの声かけを受けたり、学び支えあう関係作りへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や家族の面会時に家族の希望や要望を聞き取り、日常のかかわりの中から入居者の思いや意向を汲み取るなど、サービス担当者会議にて職員全体で話し合い検討している。また、センター方式を採用して思いや希望の共有化に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時の面談や日常のかかわりの中から入居者・家族の希望や意向の把握に努め、介護計画に反映させている。サービス担当者会議やミーティングにて職員全体で協議・検討を行うなどの仕組みがある。		
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングでプランの内容について検討、評価を行い、その都度の状況変化に合わせて見直し、再作成が行われている。また、3ヶ月に1回、入居者、家族の意向や希望の確認を行い、介護計画書の見直しや再作成を行うなどの仕組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	入居者のかかりつけ医との連携、通院介助など、家 族の要望に対して柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医による1週間に1回の往診の実施が ある。かかりつけ医への受診は基本的には家族対応 であるが、家族が対応できない場合は職員で対応す るなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に緊急時や重度化した場合の、ホームとして 対応できるケアや指針について家族等に説明を行 い、同意を得ている。重度化の時期を迎えた場合は、 本人や家族、ホーム職員、かかりつけ医等と連携しな がら話し合いを積み重ね、対応方針を定めて支援す る取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーが損なわれないよう言葉遣い や接し方について、研修やミーティング等で徹底した 指導が図られている。また、入居者と視線をあわせた 会話やゆっくりとした言葉かけがなされており、入居 者を尊重した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮し、日々の過 ごし方、食事のタイミングや食事の取り方、居室やリ ビングでの過ごし方など、その日その時の入居者の ペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	入居者と職員と一緒に食事を取り、ゆったりと和や かに食事ができる雰囲気であった。入居者が料理を つぎ分けたり、茶碗拭きをするなど、入居者一人ひと りの状況によって、できることに携わっていただくよう な対応が見受けられた。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方近くまでの時間帯で、毎日入浴が可 能である。入居者の今までの生活リズムを尊重し、入 居者の希望する日や時間に沿って対応するなどの支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者のできる事や希望、生活歴などの情報をもと に、裁縫、編物、工作、園芸など、趣味や習慣を生か せる機会を積極的に作っての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	近所の公園までの散歩や買い物、初詣、花見、地域 行事への参加など、外出を支援している。車椅子使 用の入居者も同様に、できる限り戸外に出かけられ るよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日常は開錠しており、職員は入居者の様子をよく観 察しており、さりげない声かけや見守り、外出傾向が あれば入居者と一緒に職員が外出するなどの支援を している。		
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、ホーム独自の避難訓練の実施がある。緊急 時に地域の協力を得るための働きかけはこれからで ある。	○	災害等の緊急時に地域の協力が得られるよう、運営 推進会議を利用して働きかけを行い、体制作りに取り 組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居者ごとに毎食の食事摂取量を記録してい る。水分摂取量が少ない入居者には、水分摂取を 勧めるなどの対応がある。委託業者にて献立表を 作成し、カロリーや栄養バランスを考慮した食事 を、入居者の心身状態にあった食事形態で提供等 を行うなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は少しの段差もなく、安全に移動できるつくりとなっている。入居者が外出した際のスナップや季節感を取り入れた装飾品などが程よく飾られている。リビングには置のスペースがあり、季節の野の花が飾られるなど、ゆっくりと居心地良く、過ごせる工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家具、ソファ、テレビなどの馴染みの物や装飾品が持ち込まれており、思い出の写真等を飾るなど、ゆっくりと安心して過ごすための配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号